

週刊センターニュース No.313



第313号(2010年6月21日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: <http://www.rche-kanazawa-u.jp/>

〇●〇 大学コンソーシアム石川主催 2010 年度

第2回 FD・SD 研修会開催のご案内 〇●〇

テーマ: 「学生の質問力・主張力を伸ばすためにー100人ゼミの応用可能性を考えるー」

日時: 7月5日(月) 18時~20時

場所: 石川県政記念しいのき迎賓館3階 セミナールームB (金沢市広坂2丁目1番1号)

※テレビ会議システムを用いて、コンソーシアム加盟高等教育機関に送信します。

講師: 橋本 勝 (岡山大学教授、教育開発センターFD部門長)

趣旨: 多人数授業を通じて学生の潜在力を無理なく引き出す橋本メソッド。『学生と変える大学教育ーFDを楽しむという発想ー』(ナカニシヤ出版、2009年)などで明らかにされ、科目の違いを超えて授業方法の改善のために貴重なヒントを与えるものとして注目されている。効果的なFDを求める高等教育関係者にご参加いただき、橋本メソッドの実際について議論を試みたい。

【参加申込】メールで、「第2回 FD・SD 研修会参加申込」として、①機関名②所属③氏名をご記入のうえ、oono@ucon-i.jp (担当: 大野) までお願いします。開催日の前日まで受付します。

〇●〇 協調学習について考える 〇●〇

近年、高等教育において、実践的な問題解決能力の育成の必要性からプロジェクト学習などの協調学習が注目されている。協調学習は学習者の主体的な学習態度と参加、行動を促進することが期待されており、多くの高等教育機関で導入されてきている。しかし、高等教育機関においてはその実施において課題がある。特に一番の問題は学習者によって履修している授業が異なり、学習者間でスケジュールが合わせにくいことがあり、これは本学でも同様である。特に共通科目のような、履修している受講者の所属学類が多様であればスケジュール調整は困難である。多くの高等教育機関では学習管理システム(Learning Management System: LMS)上で動作する電子掲示板などのCMC(Computer-Mediated Communication) ツールを利用し、授業外のプロジェクト学習の支援を行っている。協調学習の前提となる学習観は「個人間(または個人と共同体)のインタラクションによって学習がなされる」という社会構成主義的観点であり、学習者の能力を向上させることだけが目標ではなく、学習成果、能力向上に至るまでのプロセスにおいて、学習者間のインタラクションをどう活性化させるかという点が協調学習、ならびに協調学習を支援するシステムの設計において重要な観点になるだろう。

協調学習の中で活発な議論を促進させるためには、議論のテーマや論点、お互いの考え方を整理が1つ有効な方法である。実際のオンラインの議論ではお互いの考えを文字でしか言い表せないために、お互いの考えを誤解し、議論を展開することもある。その問題に対して有効な方法として利用されて

いるのが、コンセプトマップを議論に併用することである。コンセプトマップは概念を表すオブジェクトと概念間を結びつけるリンクや因果関係を示す矢印で示されるものであり、知識・思考の外化に有効とされている。福井他(2002)は協調学習の中で、協働でコンセプトマップを作ることの有効性について示唆するため、協働でコンセプトマップを作成するために開発されたシステム「あんどう君」の評価を行っている。この評価において、「相手の考えを知ることができる」、「相手の考えに関心をもった」、「相手の考えと自分の考えを関連づけることができた」など高い評価を受けている。この「あんどう君」は理科教育を中心とした科学教育で、小学校から大学まで幅広い学生層で利用されている(稲垣他、2005など)。

近年はLMSを導入し、授業外の協調学習支援を進めている大学も増えてきている。今後、より良い支援を行うためにはこのような機能をLMSにモジュールという形で設計・実装するなど、充実したツール群が求められる。教育工学分野はこのような協調学習を始め、さまざまな教育支援ツールに関する研究知見がある。これら知見を活かし、機能開発と普及が望まれる。

参考文献

福井真由美・加藤浩・舟生日出男・鈴木栄幸・山口悦司(2002) 共同学習の支援におけるコンセプトマップ共同作成システムの有効性について、教育システム情報学誌、19(4)、292-297

稲垣成哲・舟生日出男・山口悦司・出口明子(2006) あんどう君プロジェクト：リフレクションを指向した学習コミュニティの発展、科学教育研究、30(3)、132-144

あんどう君ダウンロードページ <http://www.isl.hiroshima-u.ac.jp/~funaoi/undo/>

(文責：教育支援システム研究部門 山田政寛)

〇〇〇 新着図書のお知らせ 〇〇〇

大学教育開発・支援センターに、下記の図書が入りました。図書室(総合教育1号館6階613号室。センター共同研究室向かい)に所蔵しております。ご関心のあるもの、参照したいものがございましたら、お貸しすることができますので、ご連絡いただければ幸いです。

- ・京都・朱雀高校特別支援教育研究チーム 著『高校の特別支援教育・はじめの一步—これなら普通の高校でできる、私にもできる—』明治図書、2010年
- ・羽田 貴史 他著『高等教育質保証の国際比較』東信堂、2010年
- ・OECD 編(森利枝 訳、米澤彰純 解説)『日本の大学改革—OECD高等教育政策レビュー：日本』明石書店、2010年
- ・篠原 睦治著『関係の原像を描く—「障害」元学生との対話を重ねて』現代書館、2010年

〇〇〇 アカンサスポータルにFD・SDカレンダー掲載中 〇〇〇

アカンサスポータル上にFDカレンダー・SDカレンダーを掲載しています。大学教育に関連する学会開催情報、全国の大学や大学コンソーシアムによるフォーラム・セミナーの他、各種研修会情報(FDカレンダーは2010年12月まで更新、SDカレンダーは、2010年12月まで更新)もあります。是非、ご活用下さい。